



～ 学校便り～

なつめ 2月号

〈編集・発行〉
鹿児島市立喜入小学校
〈発行日〉
令和3年2月19日

「100点だったよ」と言って終わりたい



体育委員会主催の
持久跳び大会

校長 内村 英人

去る2月13日から17日の五日間、第68回県下一周駅伝大会が行われましたが、出場した某チームに、私の息子の小学校時代の友達が出場していました。大会初日と三日目、そして最終日に走り、初日は、区間新記録という快走を見せました。小学生の頃は、サッカー少年で、少々無愛想ながら憎めない

という印象の子どもでした。数年後、高校生になった彼と再会したときには、礼儀正しい挨拶とにこやかに近況を話す好青年になっていました。その後、大学で箱根駅伝を経験し、社会人となって、故郷に錦を飾る成長ぶりです。サッカー少年だった頃、彼はチームの中心選手の一人でしたから、今後もサッカーを続けるのだらうと思っていました。しかし、彼は陸上に転向するという道を選択しました。そして、その選択が間違いではなかったことを証明しました。あるいは、努力を積み重ねることによって、自分の選択を正しいものにしたと言えるかもしれません。

今、本校の子どもたちは、2月25日に予定しているなわとび大会に向けて、練習中です。昨年12月に実施した持久走大会と同様に、長期にわたる練習期間を設定して取り組ませています。なわとび大会の前哨戦ともいえる持久跳び大会（体育委員会の子どもによる企画・運営）も行われ、大会に向けての機運も盛り上がっています。粘り強く練習を続けることを期待していますが、持久走において粘り強く努力したから、今度のなわとび大会に向けてもそうであるかということ、必ずしもそうではありません。興味・関心の違いもありますが、これまでの学習活動を通して、粘り強さは他のあらゆる活動においても共通する大切なことであることを深く学んでいるかにもよると思います。なわとび大会は、「自ら課題を見付け、解決しようとする『学ぶ子ども』」「めあてをもって最後までやり抜く『磨く子ども』」「進んで運動し体を『鍛える子ども』」という本校の目指す子ども像に迫るための大切な教育活動です。感染防止対策を怠りなく実施しますので、それに御協力いただいて御参観ください。

なわとび大会に限らず、残り3週間余りの学校生活は、目指す姿にどのくらい近づけているかを振り返りながら過ごす大切な日々です。「いろいろなことがあったけれども、あなたの学校生活は100点だったよ。」と言って終わりたい。うまくできたことも、できなかったことも含めて、悩んだ過程やチャレンジしたことを価値ある時間だったのだと心から称賛したい。だから、ここからの3週間を大切にしたいと思います。

次ページに、本年度実施された鹿児島学習定着度調査結果の概要をお示しします。この数値が全てではありませんが、これも教育の結果の一つです。この結果を真摯に受け止め、残りの期間の指導を充実させ、「100点だったよ。」と言えるように努めてまいります。

【本年度の一事徹底事項】「元気なあいさつ」（磨く子ども：豊かな心をつくる子ども）

あいさつ指導を強化している成果が、子どもの姿に表れているように思います。いかがでしょうか。6年生は、学校のリーダーとしてあいさつ運動を行ってくれています。先日は、元気よくあいさつをする子どもに対して、「礼儀正しいこと」と、地域の方からお褒めの言葉をいただきました。地域の方のこうしたお声掛けは、大変ありがたいです。

朝だけでなく、日常的にあいさつができるように、指導を続けてまいります。

抵抗力を高めましょう（十分な睡眠 適度な運動 バランスのとれた食事）